

今年 10 月 13 日（日）～14 日（祝）に開催される「会津やないづ赤べこマラソン 24 時間走」に向けての試走会に参加しました。

昨年 6 月に第 1 回大会として夜間の 12 時間走を行ったのですが、今年から 24 時間走のカテゴリーを新設するのにあたって諸々の事情でコースを変更する事になり、その新コースでの試走会でした。

B&G 海洋センターの柳津町運動公園野球グラウンドの外周道路を反時計回りに周回する 1 周 525m のやや短いコースですが、実際にレース会場として使用した場合を想定しながら 6 月 15 日（土）夜 8 時から、16 日（日）の朝 8 時にかけて 12 時間を走りました。

ランナーは私のほかに 48 時間走現アジア記録保持者の大滝雅之さん。そして地元会津のランナーで昨年の第 1 回大会で女子 3 位となった猪俣美樹さんと 3 人のみでしたが、サポート陣は友人の高津譲さん（IAU 国際ウルトラランナーズ協会コミュニティ委員）、堀口一彦さん（阿賀まちづくり株式会社代表）、花ホテル滝のやご主人の塩田さんをはじめ総勢 10 人ほどが集まって下さり、至れり尽くせりの殿様ランニングでした。

ロードの 24 時間走としては 1 週の距離は短いですが、緩やかな起伏と、1 カ所 15m ほどの急登があり、変化の激しい退屈しないコース。途中試験的に 3 時間ほど時計回りに走ってみましたが、急登が下りに転じると脚に掛かる負担が大きく、安全面を考慮して反時計回りに戻しました。印象としては昨年の 1 周約 1.3 km のコースに比べて全体的に段差が少なく、走りやすさを感じました。

またこの日は雨に降られる事もなく、風もなく、暑さ寒さも気になるほどではなく、絶好のランニング日和の下で気持ちの良い汗を流しました。

私は健康維持の目的で今年に入ってから月間 300 km のジョギングを続けておりましたが、1 回で走る距離は長くても 20 km 程度だったせいか、スタートから 4 時間ほどで 35 km を超えた辺りから案の定、脚が棒のようという事をきかなくなってしまう事態に。ここからペースを落とし歩きも交えながら凌いでいたのですが、気晴らしに食べたミニカップ麺が功を奏したのか、その後ペースが元に戻り、スタート前の目標が 70～80 km だったのを上方修正して 100 km 超えを目指して後半に突入しました。

後半の 6 時間は自分のコンディションやペース配分を管理しつつ、久しぶりに自分のレースを造りながら走れる喜びに浸り、気分よく走る事ができました。柳津で 12 時間を走るのはこれで 4 回目ですが、今までで一番の快走だったと思います。

結果、フィニッシュ時間の 15 分前に 100 km に到達！

最終的には 101.85 km（コースを 194 周）まで記録が伸びましたが、昨年の大会で実施した「只見線チャレンジ」で、会津柳津駅から終点・小出駅までの営業キロ数 101.9 km を踏襲したランナーに与えられる「只見線マスター」の称号をほぼほぼクリアできました。

今回のコースは只見線の沿線に位置しますが、電車の行き来を眼前に見ながら走るのもなかなかの風情だと思いました。

夜 8 時のスタートから 45 分後。まず最初に会津川口行きの電車が山間から現れたのですが、我々を応援してくれているかのように踏切を通る際に警笛が鳴らされ、思わず電車に向かって手を振りました。その 2 時間後に会津川口行きの最終電車が通り過ぎて行き、真夜中の時間帯に突入。コースの周りには田畑が広がり民家や商店なども皆無。そして行き交う車もほとんど無く、途中は大滝さん、猪俣さんとオシャベリしながら何周も走り、スタッフの皆さんからはエイドを通過する度に拍手と声援を頂きました。また一人になる時間帯にも蛙の鳴き声に励まされながら最後まで気持ちが切れず、12 時間の間一度も眠気を感じませんでした。

午前 4 時くらいになると夜が白み始め、6 時 20 分頃に会津若松行きの始発電車が通過します。

電車の通過と共に一日の始まりの刻を知り、その後 7 時 10 分頃に小出行きの始発電車が通過し、8 時少し前に会津若松行きの 2 番電車の通過を見届けながらフィニッシュタイムを迎えました。

都会のラッシュアワーのような慌ただしさから解放され、1～2 時間に一度、2 両（或いは 1 両）編成で現れる箱型の車両は鉄道オタクでもない私から見ても愛嬌があって愛着が湧き、只見線がより一層好きになりました。

た。

只見線の始点会津若松駅から終点小出駅までの全線の営業距離が 135.2 kmである事に因んで、この距離を走破する事を目指す「只見線チャレンジ」を今回の 24 時間走でも実施する予定ですが、只見線の沿線を連なって走るランナーとのコラボレーションは「撮り鉄」にとっても滅多にないシャッターチャンスになるのではないのでしょうか。

イベントとしても今後様々な膨らみが期待できるレースになると思いますが、まずはランナーの皆さんに安全に楽しんで走って頂ける。そしてスタッフやボランティア、応援の方々にも喜んで頂き「また次回も柳津に来たい」と思って頂けるような大会を目指していきたいと思います。

今回の試走会に参加して下さいました皆さま、色々とお世話になり本当にありがとうございました。

そして来たる本大会の際には地元の皆さまのご支援、大会に対するご理解とご協力を賜れたら幸いに存じます。

福満虚空藏菩薩圓藏寺再建のために救世主として現れた赤毛の牛に由来する「赤べこ発祥の地」柳津に於いて、赤べこの如く忍耐強く、夜を徹して走るランナー達を是非応援して下さい！